實驗上の育兒

醫學博士　瀨川昌耆

前回に續いて牛乳を代用す

▲素人は誤つて牛乳を代用す　乳の事をも少しふ咄し致しませう、素人の方や醫師の間に斯んな誤解の説を傳へられてあります、哺乳兒が乳汁を吐くとか、或は下痢するやうな場合には素人考へで『之れは大方母乳（或は乳母の乳汁）の性質が惡いのだらう、早やく牛乳に改めなければ』と牛乳に取り換へたりするし、又た醫師でも、吐乳するとか、下痢する哺乳兒を診察して『母乳を飲ませることは見合はせて御覽なさい』と云ふ母親は醫師の斯ういふ勸告を聞くと『夫れでは母乳の代はりに何を與へたら可いでせうか』醫師『無論牛乳で育てなければなりません』と早計にも母乳を廢して牛乳を代用させて仕舞ひます、保育上の缺點は斯ういふところにあるので母親は此説を聞いて輕々しく信じてはなりません、先づ哺乳兒が斯る狀態に陷つたなら其の原因を充分に明め直ぐに乳汁を換へる抔は宜しくないことであります

▲毎日の習慣に缺點あり　乳の分量が多過ぎるか、左もなくば飲ませ方が惡いのです、乳汁の飲ませ方や、乳汁の分量などは前々にもふ咄し致した通り餘り手近な事で、母親の毎日取扱つて慣れ過ぎて居る程だからツイ知らず識らず保育上の攝生を缺くに至るのです、爾うして夫れが母親の手に慣れて仕舞うから何うしても其の缺點を發見し惡くいので原因を他に求めるやうになり、實際は母乳（或は乳母の乳汁）の性質が惡くもないに、母乳が惡いのだらうと飛んだ方角へ考へ違ひをして牛乳を代用するに至るが、斯んな早まつた事は深く誡しむべきであります

▲牛乳に耐えぬ兒　哺乳兒によつては人乳の代りに牛乳を飲ませても何うしても吐いて消化されない性質の哺乳兒があります、ソコで種々な方法を工夫し、牛乳を飲み習はせやうと百方苦心したが飲ませれば、直ぐ吐乳して仕舞うのです、未だ胃腸の虛弱な小兒などは、何うしても牛乳を消化し得ないで、飲ませるに吐乳とか下痢とかして何

兎角斯る場合には授

んなに工夫しても胃腸症が癒えぬが斯ういふ場合に人乳を用ゐて始めて胃腸が整ふといふ例は澤山ある、之れ等は孰れも絶對に牛乳が其の哺乳兒に適さぬのであります、孰れの點から考へても牛乳は到底人乳の上に出づることの出來ない事は是迄説明したことで充分お分りになつたこと丶信じます、併し尚茲に申上げて置たいことがあります、極く稀れには最良の人乳即ち乳母の乳汁でもつて自分の保育する小兒は、極く能く滿足に育ち乍ら、其の乳汁を飲むと忽ち吐いて何うしても胃へ收まらぬ小兒があるといふ報告などのあることがあります、夫れと同じやうな理窟で貰ひ乳をするところが其の乳汁をば吐いて受けない小兒があると云ふ事を耳にするけれど、斯んな例はまづ無いものとして差支へない。

▲授乳の原則

次に哺乳兒に人乳を飲ませる方法を述べませう、之れ迄何人の實驗でも乳汁を多く飲ませ過ぎることは一ッの缺點であります故に授乳の原則として「成可く時間を置いて飲ませよ」と云ふことがある、此位にしても、泣けば直ぐ飲ませ、抱けば乳房を含ませると云ふ弊害に陷り易いのであります。

▲二時間で消化す

總て小兒は善惡に係らず何事にも癖の付き易いもので、母親の取扱ひで何うにでも養育さるゝのは實驗上既に御承知でもありませう、故に授乳してから授乳する迄の時間の如きも小兒をして規則正しき、良き癖を付ければ其れが習慣となるものであります、哺乳兒は最初の間は二時間目に一回授乳するのが適當です、何故ならば乳汁は二時間經過なければ全く消化しないものです、尤も哺乳兒時代に於ける最初の內は胃袋も小さし一度に澤山飲むことは出來ぬが夫れにしても二時間の隔てを置かずに授乳しては決して愛兒のため宜しくないのです。

▲胃腸病を起す

處が今日迄授乳の方法を見るに孰れも時間が不規則で嚴重に此注意を守るものは尠ないのです、御覽なされ日本の哺乳兒に胃腸病の多いこと、何うして此病氣が多いのかと云ふに乳汁の飲ませ方が不注意で、無暗に時を嫌はず飲ませて、飲み過ぎさせるからであります、ソコ

で小兒が斯んな病氣に陷つたとて、罪を乳質の惡しきに歸する事は前にも云ふ通り早計極まるのです、要するに乳質の惡いのは母親が脚氣症に罹つたとき位のもので、此の病症ある母乳は斷じて與へてはならぬのです、尙小兒が健康なる体質で、乳汁を飲み過ぎさへせずば胃腸病を起すやうな憂ひはないとお心得を願ひたい。

▲睡眠中は授乳すべきか　哺乳兒が生後五六十日間を經過したら其後は三時間目に一回授乳するやうなさい、飲ませて居る時間ですか、夫は充分飲み畢る迄飲ませるが可のです、身体虛弱の小兒なら十二三分から廿分間位は飲續けるし强壯なる小兒なら五六分間で飲止で仕舞ふのもあります、强壯なる小兒なら飲方が荒いので之は前にも說明した通りで詰り飲み止んだらすぐ乳房を離すのです、生後五六十日を經過して追ぐ成長するに至れば夜分は成可く授乳せぬやうに習慣を付けなければなりません「之れ迄夜中でも食ませたものを、飲ませなければ可愛想だ」と姑息の愛に溺れて熟睡して居る小兒を喚起して授乳する如きは尤も弊害の甚だしきものです、熟睡すれば其儘にして置くが可い、無理に飲ませるのは却つて害となります。

▲食物を與へる時期　三時間目に一回飲ませると八度授乳する割合になるが、夜間よく熟睡するやうになると自然に六度位に減ずることの出來るやうになります、生後七八ケ月（即ち生齒の時期）になつたら乳汁の外に食物を與へて差支へないのみならず普通に發達した小兒なら此の時期になると必ず乳汁の外に何か食物を欲しがるやうになります。

▲牛乳を與へる時期　牛乳は母乳にまぜて何時飲ませてもさしつかへがないから哺乳兒が生齒時期（生後七八ケ月の頃）になつて既に食物を與ふべき頃になつたらまづ母乳を飲ませる間に牛乳をまぜて飲ませるがよいのです、總て斯ういふ場合には母乳の回數を減じて牛乳を其代りに飲ませるのですが、之れは哺乳兒が追々母乳を離れて食物へ移る時代に入るはじめであるからです、尤も生後七八ケ月位の小兒では、牛乳を其儘では少し濃過

ぎます故、一合の牛乳へは湯を五勺位加へ、少量の砂糖を入れて飲ませるやうするのです。（牛乳の飲ませ方は後に詳しく述べん）

▲始めて與ふる食物　去れども母親の乳汁が澤山あれば何も牛乳を交ぜて飲ませるには及ばない、直ぐに食物へ移つて宜しいのですが母乳を止めた後も當分は普通の食物許りでは保育に六ケ敷いから矢張り毎日二三合位は牛乳を飲ませる方がよろしいのです、此の時代の哺乳兒に與へた食物は羹汁、之れは濃くないもの、夫れから粥ですが、粥と云ても普通の粥では困りますおもゆ同樣な一寸箸を入れて見ても箸にかゝらぬやうな薄い粥です、其の粥の中へは生玉子の黃身を適宜に混和し、鹽か或は醬油をもつて味を付け、小兒の好むやうに、喰べ可いやうにして與へるのです、爾うして最初は夫れを盃に輕く一杯位盛り午前中に一回、午後に一回、都合一日に二回與へて御覽なさい、無論斯うすると母乳を減する事は、唯今牛乳を飲ませるお咄しの處で述べた通りに減さなければなりません、即ち晝夜八回授乳するものなら二回分丈は母乳を減じる事と心得ねばなりません先づ斯うして暫く小兒の身体に異狀なきや否や調子を見なければなりません、吐瀉する憂ひもなく、能く消化した大便なら至極結果の善良なるものであります。

▲徐々食物に移るべし　以上の如き方法で小兒の營養が良好なれば漸次に母乳を減じて、他の食物即ち、牛乳とか、玉子のお粥とか、羹汁とか爾ういふものを徐々に增して行く、回數も殖せば分量も殖すし、薄い粥は濃くすると云ふ樣な鹽梅にするのですが、其の調子が六ケ敷い故、母親並に保育の任に當るものは周到綿密なる注意をして急に代へるやうなことをすると小兒の身体に害を迫ぼします『何時とはなしに母乳から食物へ移りました』と云ふやうに知らず識らずの間に食物を與へ、夫れを食べなれて身体に異狀もなく、充分消化し又發育も申分なきに至るやうな方法を取らなければならない、此邊の注意は寸毫も忽にすべからざることですから吳々も緻密に工夫して取扱はねばなりません。

▲溶けるやうな菓子　小兒が滿一年近くなると授乳の間にビスケットとかポールの如き澱粉や砂糖で製した菓子を與へて差支へない、此時期になると母親が與へないでも小兒の方から自然爾ういふものを欲しがつて來るものです、尤も斯ういふ菓子類でもゴチ〳〵した堅いものや、口へ入れても力を入れて咀嚼がねば消化せぬやうなものでは與へて却つて害になるのです、先づ口へ入れたなら直ぐに解けて仕舞うやうな性質のものを選ばなければなりません、之れを思はないで、ビスケットなら何んでも宜からうと云かやうな無責任なことをされては困ります、夫れから飴などを與へたら何うだらうかと云ふ御質問をなさる方もありますけれど之は與へて宜しいのです、牛乳の中へでも溶き交ぜて與へれば尚結構です、近來下山、丹波の兩藥學博士がヂゲストーゼの飴を拵らへて賣出してあるが斯ういふ飴なら尚可いと思ひます夫れに極く軟かな水飴ですから熱度の低い牛乳でも善く溶けます。

子を持てる親方への注意

左の數項は米國紐育市の一雜誌が懸賞にて募集せるものなりと云ふ、參考にもと譯出せり

▲神經質になる原因　赤子は生れて二ヶ月目に事物を識別する徴候を表し、初めて微笑したり、或は音響の來る方向に頭を向けたりなどします。此時が家族の大に注意すべき時で堪へず話をしかけたりガラ〳〵やサイヅチや其他いろ〳〵の手遊物を振たり、其前を彼方此方と通過したりして可愛がりますが此事を適當に宜しきを得る樣に心掛けぬと小兒を神經質にするのであります。赤子の神經系は極めて弱きもの故物事を强てはなりませぬ、貧乏人の小兒の方が富貴の人の小兒より却て神經質でないと云ふことは吾人の熟知する處ですが此は重に母親や家族のものが絶えず侍て居る事が出來ぬからです。赤子は生れながら神經質ではないので譬へ其傾向が有るにせよ生て年月の多く過ぬ内に規則正しく養育し、十分に睡眠させ自然の發達に任せて更に强ゆ